

街道を歩く

美江寺宿 (河渡宿より1里7町)

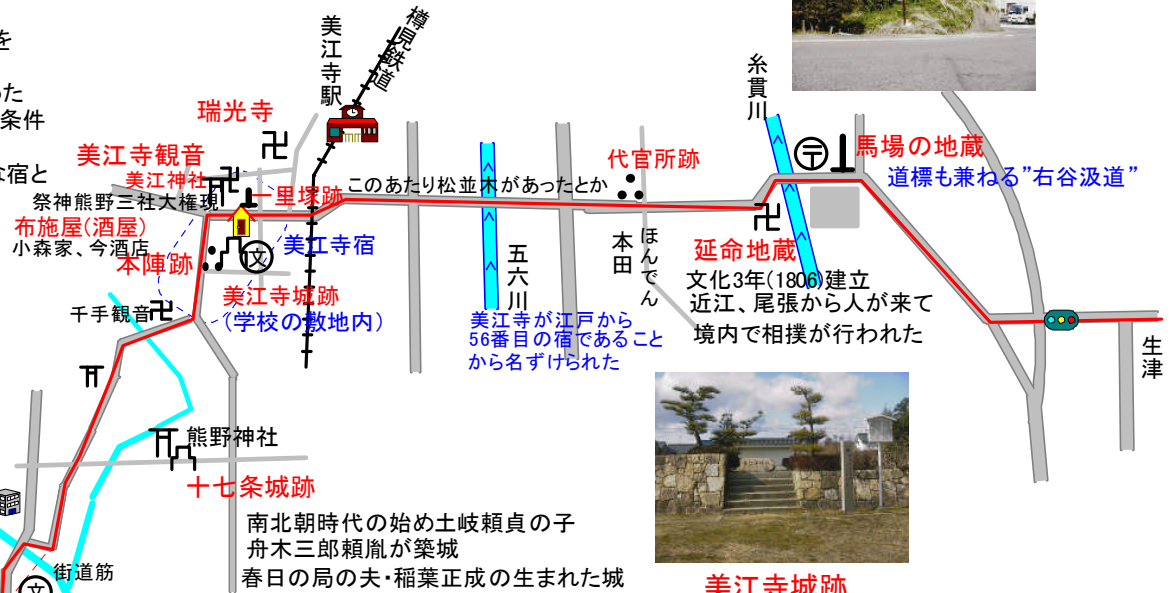
中山道：河渡宿西一美江寺宿一呂久



天正17年(1589)豊田秀吉の下知により間屋が設けられ往還の荷継ぎ業務が行われていた。江戸時代になり中山道が整備され駅伝業務をする宿場となった。町並み5町19間、脇本陣なし、旅籠も少なかった大雨の時長良川の増水で往還が冠水し宿の条件は悪かった。幕末の頃雲助、博徒、無頼漢が横行し物騒な宿となったが反面酒場など繁盛し栄えた。明治21年濃尾大地震で宿は壊滅。

美江寺観音

木曾、長良、揖斐の三大河川の氾濫を鎮めるべく伊賀の国から十一面観音をここに移し大伽藍建立河川が穏やかで美しい流れとなったので美江寺と命名、天文18年(1549)斎藤道三が大伽藍を井の口に(岐阜)移す。長い間廃寺であったが和田泰吉(また幸右衛門)が夢の告げにより蔵にあった観音様をお堂を建て祀ったのが現在の観音様。



美江寺城跡

室町後期から戦国時代美濃国守護職和田氏の本拠 応仁・文明の頃(1460頃)和田八郎が居を構えたのが美江寺城の創始 和田氏累代ここに住んで土岐氏に従う。斎藤道三が美濃の実権を握った時、和田将監高行は土岐氏についてたため道三に攻められ天文11年(1542)9月3日の夜戦の放火により灰燼となり和田氏敗退。今中小学校、幼稚園敷地

瑞光寺句碑群

浄土宗西山派、俳句の美濃派獅子門第十九世道統山本友左坊の菩提寺。宝暦7年(1757)本陣兼間屋であった山本家に生まれ俳人として名を挙げ90歳で没す。友左坊が近在の俳人の協力を得て松尾芭蕉の句碑を建てて以来多くの句碑が添建される。

"旅人と我名呼れん初時雨"芭蕉



あきやま

小廉紅園

仁孝天皇第8皇女和宮は降嫁のため文久元年(1861)10月26日10時頃呂久に到着、大垣藩の用意した船で呂久川(現揖斐川)を渡る御座船で対岸の楓を眺め

"落ちていく 身と知りながら
もみじ葉の 人なつかしく こがれこそすれ"
と詠まれる。
渡船を記念し昭和4年公園が造られた。



平成 12 年 10 月 27 日

